

園芸機能開発学特論演習 I (2単位)

担当者氏名 山口正己・雨木若慶・杉山信男・馬場正

◆学習・教育目標

各自の修士論文の主題（テーマ）に関する先行研究を渉猟し、それをまとめ、プレゼンテーションする経験を積むことで、質の高い学会発表や修士論文発表ができるような資質を高める。さらに参加者の発表を聞き、ディスカッションに参加することで、学部で学習した園芸機能開発に関する学識を深化させる。

発表に先立ちレジュメを作成することにより、事実と意見を区別して論理的に記述する能力や明快簡潔な文書能力を習得する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

<u>園芸</u>	<u>機能開発</u>	<u>バイオテクノロジー</u>	<u>品種育成</u>
<u>種苗生産</u>	<u>環境制御</u>	<u>ポストハーベスト技術</u>	<u>品質保持</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス	本演習の進め方のガイダンスを行う	修士論文の研究テーマを確定すると共に、既往の研究について論文の収集を行っておく。
2	難繁殖植物の増殖法(1)	毎回数名が発表を行い、発表後にディスカッションを行う。発表内容については、基本的に修士論文テーマに関連するものを中心にし、学会発表棟を予定している場合にはその内容を学会発表形式で発表することも可能である。 2. から 4. までは、増殖の困難なラン等の組織培養による増殖法について既往の知見の整理と今後の研究課題について理解を進める。 5. から 7. までは、通常の方法では発芽しない野生植物等について、発芽促進処理等について既往の知見の整理今後の研究課題について理解を進める。 8. から 10. までは、LED 照明による植物の生育反応について既往の知見の整理と今後の研究方向について理解を進める。 11. から 13. までは、LED 照明による培養植物の開花誘導法についての既往の知見の整理と研究の課題について理解を進める。 14、15 についてはトマト等の野菜の収穫時期等に関わる DNA マーカー開発の現状と課題について理科を進める。	
3	難繁殖植物の増殖法(2)		
4	難繁殖植物の増殖法(3)		
5	難発芽種子の発芽促進法(1)		
6	難発芽種子の発芽促進法(2)		
7	難発芽種子の発芽促進法(3)		
8	光質制御による園芸作物の生育促進法(1)		
9	光質制御による園芸作物の生育促進法(2)		
10	光質制御による園芸作物の生育促進法(3)		
11	光質制御による花卉の開花促進技術(1)		
12	光質制御による花卉の開花促進技術(2)		
13	光質制御による花卉の開花促進技術(3)		
14	特定形質に関わる DNA マーカーによる選抜の効率化(1)		
15	マーカーによる選抜の効率化(2)		

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

植物生理学/L. テイツ、E. ザイガー/培風館/2008

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

園芸生理学/山木昭平編/文永堂出版/2007

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

各自が行う発表内容と、その後受講者全員で行うディスカッションで総合的に評価する

◆その他受講上の注意事項

毎週金曜日 3 時より、相談を受け付ける。
